第２回　西蒲区教育ミーティング　会議録概要

開催日時	平成２７年１月３０日（金）午後２時００分から午後３時００分まで
会　　場	巻地区公民館　研修室（２階）
出　席　者	西蒲区自治協議会委員　出席２５名 西蒲区ＰＴＡ連合会　会長（稲垣） 教育委員（沢野、吉村、伊藤、眞谷） 事務局　教育長、教育総務課、生涯学習課、教職員課 学校支援課、巻地区公民館、西蒲区教育支援センター
議　　事	１　開　　会 ２　教育委員代表挨拶　　眞谷教育委員 ３　出席者紹介 ４　テーマについて 「地域と学校の連携について」　事務局説明 ５　自治協学校訪問報告 （岩室中学校・中之口西小学校・潟東南小学校） ・１月２０日（火）１０：００～　岩室中学校訪問 ① 地域と学校がしっかりと連携をとり、実効性のある活動を行っており、学校と地域で生徒を育てていると強く感じた。 ② 行事参加後に、生徒が「振り返り」を行っていることはよいことだと思う。 ③ 地域教育コーディネーターが、地域活動を通して生徒の地域貢献や思いやりの心を育んでいるのが十分伝わってきた。 ④ 地域教育コーディネーターがコミ協メンバーとして、地域と交流があることはニーズを知るうえでよいことだと思った。 ⑤ 校舎を地域に開放して避難所としても活用されていることは、とてもいいことだと思う。 ⑥ 生徒は授業や部活等で忙しいと思うが、社会活動の時間をもっと取れないかと思う。 ⑦ 夜間の行事に参加の際は、地域住民の参加を得て十分な安全確保をお願いしたい。 ⑧ 懇談はテーマを設定し、もう少し学校側との意見交換の時間が多い方がよかった。 ・１月２１日（水）１３：４５～　中之口西小学校訪問 ① 学校や子どもの様子を個人情報を守りながらも、ＨＰで広く公開しており、地域との情報共有に努めている。

	② 地域に開かれ子どもが楽しく学べる学校、故郷を思う子どもに育ってほしいという想いが授業に見受けられた。 ③ 食育教育や道徳教育などに地域の専門家を取り入れており、子どもたちは興味をもって熱心に学んでいた。 ④ 保育園や幼稚園との連携がとれていて、学校教育に子どもたちがスムーズに移行できている。 ⑤ 子どもたちが地域活動や行事に積極的に参加しており、小規模校の良さが学校現場の随所に現れている。 ⑥ 通学路は原っぱが多く街灯も少ないので、安全対策を講じてほしいという意見があった。 ⑦ 訪問日と父兄の授業参観日が一緒でよかったという意見と、そういう状態では授業参観はしなくてもいいのではないかという意見もあった。 ⑧ 意見交換の時間が短かった。来年度は調整してほしい。 ・１月２７日（火）１４：００～　潟東南小学校訪問 ① 地域と学校との連携がとてもうまくいっていると感じた。年３回の「南小学校を語る会」が大きな役割を果たしていると思った。 ② 不審者情報が伝わった時の対応やペット（モルモット）の飼育など保護者や地域の人が積極的に協力している。 ③ 小学校の統合が進んでおり、地域住民と一体となった取り組みが学校の目指す知徳体の成果につながっていると思う。 ④ 校長は統合するにあたって、３校で積み上げてきたそれぞれの良いところを生かして、教育方法を十分詰めることが必要と言っていた。 ⑤ また、現在の児童数について、国語や算数は限度だが体育や音楽は人数が多い方がよいと言っていた。とにかく、地域に愛される学校になることが一番だと言っていた。 ⑥ 地域教育コーディネーターは、潟東地区のイベントカレンダーを作成して全戸配布しながら、地域との一体感の醸成に努めており、学校の一員として、地域の一住民として活動している。 ６　事前質問回答 ① 防犯・防災対応に係る教職員体制について ② ふるさとの自然や文化を学び、地域とのかかわりを大切にした学習活動について ７　意見交換 自治協委員 　先日、中之口中学校で懇談会があり、その時、校長先生から全校

	ウォーキングをやっているが、なかなか大変という話がありました。 　私は、ウォーキングサークルで活動していますから、お手伝いをしましょうかと言ったらコーディネーターを通してほしいと言われました。 　そういう機会がないと、どういうふうにボランティアをしたらいいかとか、小・中学校でどういうボランティアを求めているのか知らないのが、実際じゃないかと思う。 　過去の情報も大事ですが、これからこうしていくので手伝ってほしいとか、募集しているからコーディネーターに連絡してほしいとか、そういうものがないと学校とのつながりはできにくい。 　情報を共有できればわかりあえるところもあると思うので、そういう方法を検討していってほしい。 教育委員会事務局 　情報の周知に努めているが、なかなか効果的な広報というところまでいっていない。 　地域教育コーディネーターの情報交換を通し、意見交換をしながら、情報を流していきたい。また、学校にも働きかけていきたい。 自治協委員 　学校現場が荒れているなかで、先生が指導中に、たまたま生徒に体罰をしてしまった場合、教育委員会では、先生に対する指導というのはどういうふうに行われているのか。 教育委員会事務局 　やはり法令で、体罰は禁止されておりますので、教職員として法令をしっかり守っていかなければならない。 　また、体罰によらない生徒指導の力をつけていく必要があると思う。 　そういう事例が上がってきた場合は、事実確認をしっかりしたうえで、懲戒基準に照らして的確な指導を行っている。 　今後も、体罰が起こらないように、部活では中学校の体育連盟とも連携して、指導の在り方を含めて学校に指導をしたい。 自治協委員 　身近にある中学校の話を聞いたのですが、親が教育委員会にうちの子どもが先生に手をあげられたことを連絡したとすると、最終的には懲戒免職という形で辞めざるを得ないだろうという話を聞いている。 　たとえば懲戒基準があったとしても、体罰は絶対悪いのかという

	本質的なところまで、教育委員会も考えていく必要があるという時代のような気がします。 　当然、その根本にあるのは、親が子に手をあげるのも悪い、他人である教員が子どもに手をあげるのも悪い、基本的に体罰は全て悪いという考え方自体がついこの間の考え方で、今の時代はそれであっても、認められることもあるということを、もう一回チャンスを与えることも教育委員会の役目なんだという、そのような先生がもしおられた場合には、ご一考いただける道を作っていただきたい。 自治協委員 　以前はゆとり教育ということであった。生きるための教育で、思考力、判断力、表現力を育てていこうとしている。 　前のゆとり教育でも、道徳教育というものもあるが、こうやったら判断力がついたといえることがあるのか。 教育委員会事務局 　生きる力ということで、自ら学び、自ら考え、自ら解決する力をつけていく思考力、判断力、表現力をつけるようやっている。 　そのためには、まず授業の中で基本的なものを知識として身に着ける。その基本的に身に付けた知識をさらに活用していく。そういう力が求められる。 　それが日々の授業の中で、国語・算数などの教科、学校行事や学級活動などの特別活動の中で、友達との関係性をつくりながら、そういった判断力をつけることや、友達とかかわりながら、コミュニケーションをとりながらやっている。 　あるいは、道徳では善悪の判断基準を自分でつくっていく、そういうトレーニングをするということが求められていると考えています。 自治協委員 　基本的なことより、もう少し具体的なことをお聞きしたかったが、たとえば、後藤健二さんのことでも、結局、子どもたちに何が正しいのか、人道的に正しいのか、あれだけの政府のみなさんに迷惑をかけることが、教育的な発想ならば、子どもたちにどう説明すればよいのか、どういうふうに考えればいいのか。 教育長 　今の教育は、教師が子どもたちに教え諭すのではなく、子どもたち同士が、例えば二つのグループに分かれて「いい」「わるい」やＡかＢで意見のやり取りをする中で、子どもたちが自ら考える力をつ

	くっていきます。 　世の中には「これが絶対正しい」というのはないというのが現状だと思います。これはいい，悪いではなく、他人の考えも認め合い、自分はこう思うけど、相手はこう思っているのだと認め合うことも、生きる力につながる。今の教育はそんな教え方をしています。 自治協委員 　そういうことは、私も大事だと思っています。 自治協委員 　各学校に地域教育コーディネーターが１～２人いますが、そのほかに何か問題があったときに相談する、スクールカウンセラーはどこの学校にも必ず配置されているのか。 教育委員会事務局 　基本的には毎日ということではないが、各学校に曜日や週を決めて配置されています。 自治協委員 　問題があればそういう方の相談にのって解決していくような体制になっているのか。 教育委員会事務局 　各学校の中には、教育相談部という組織があります。そこで教員が話を聞くことはもちろん、また、スクールカウンセラーが学校に来て、悩みを相談しています。 　そのほかにも、各区には教育相談室、中央区には教育相談センターなどの施設もありますので、いろいろな形で相談にのっています。 自治協委員 　資料の中で事業の実績推移がありますが、これを見ますと各学校のコーディネーターは１．５人、のべボランティアは１，２００人、のべ事業数は２９６件で、かなりのボランティアが参加されているが、これでもまだ足らないという考え方なのでしょうか。 　１校の事業数は約３００件近くあり、これだけの事業をやるにはかなりコーディネーターの方が忙しいのではないか。 教育委員会事務局 　事業の数え方ですが、たとえば、１年生の国語の読み聞かせに１時間入っていただくと１事業です。ミシンの勉強でボランティアが

	入って手伝ってもらって授業をすると１事業で、１日で２事業になります。 　そのほか花壇の整理や朝の通学の見守りなど、いろんな場面で地域の方々や保護者の方々からお手伝いをしてもらったものを合わせていくと、その事業数になります。 　地域のいろいろな方から子供たちの成長にかかわっていただくことは必要なことで、この数字をどこまで上げていかなければならないということではなく、学校や地域のニーズによって増えていくのが一番いいと思います。 ７　自治協議会長挨拶 　学校訪問の当初の目的は、現場の先生がどういうことで悩んでいるのか、困っているのかを聞こうということから始まった。 　残念ながらいいことしか出てこなかったが、現状を掘り起こして、補助職員を増やすとか、サポート的な役目を果たす職員を増やすとか、先生の負担を少しでも解消するように、教育委員の皆さんにがんばっていただきたい。 ８　閉　　会